まちの話題

みずさわ

思いを胸に社会へはばたく

水沢区成人式に551人

家族が手紙に込めた思いに答える新成人

自治区単独では最後となる19年度水沢区成人式は1月13日、新成人551人が出席する中、市文化会館（Zホール）で開かれました。

式典の部では、新成人代表2人が大人としての決意を発表。来賓や家族らを前に、育ててくれた人たちへの感謝の言葉や、責任ある社会人としての誓いを述べました。続いて行われた記念行事では、新成人の家族らがステージに登壇し、思い出やメッセージを込めた手紙を披露しました。普段はなかなか伝えることができない思いが朗読されると、新成人たちは親やきょうだいからの深い愛情に感じ入っていました。

文士と市民が一緒の夢舞台

初の市民文士劇は大成功に

文士劇と市民劇の融合を目指す市民文士劇「水戸黄門」は1月27日、江刺体育文化会館で開かれ、昼夜2回公演合わせて約1500人が鑑賞しました。

物語はテレビドラマでおなじみの「勧善懲悪」に、地元の題材や笑いを随所に盛り込んだものです。新しい試みが関心を呼び、チケットは公演1週間前に完売。当日は市民150人が出演者、スタッフとして公演を支えました。

ゲスト文士として作家の高橋克彦さん、ＩＢＣの菊池幸見（ゆきみ）アナウンサー、ＮＨＫ盛岡放送局の利根川真也アナウンサーらが出演。渡辺幸貫県議会議長、相原正明市長、伊藤正次収入役らの地元文士や市民キャストも、舞台慣れしたゲスト文士に劣らない堂々とした演技を披露しました。混成吹奏楽団による生演奏、民謡、郷土芸能などもテンポよく織り交ぜられ、最後まで飽きさせない舞台となりました。

フィナーレで市民キャストに見送られる黄門役の高橋克彦さんら（中央）

いさわ

大人の果たす役割が大事に

子育て向上に家庭教育講演会

約60人が参加した講演会

子育てや地域での人材育成を支援する目的で開かれている家庭教育支援総合推進事業講演会（市教育委員会主催）は1月12日、胆沢文化創造センター小ホールで開かれました。

人材育成コンサルタントの笹岡郁子さんが講師を務め、「子どもたちの人権問題と青少年健全育成」と題して講演しました。笹岡さんは自身が小学校時代にいじめられたことや、中学・高校時代に非行に走った経験を引き合いに、大人が果たすべき役割を紹介。「子どもは自分からいじめられているとは言えない。大人が気づいてあげられるかが大事」と訴えていました。

厳寒の深夜に厄除けを祈願

伊手熊野神社蘇民祭

伊手熊野神社蘇民祭は1月19日夜から20日未明にかけて、同神社境内で開かれました。厄年を迎える男衆らが厳寒の中、下帯に足袋姿で火たき登りや蘇民袋争奪戦を繰り広げ、五穀豊穣や災厄消除を祈願しました。

同蘇民祭は、黒石寺蘇民祭を手本に始められたといわれ、400年以上の伝統があります。見所となっている火たき登りは、火が付けられた歳戸木（さいとぎ）（丸太を井げた状に積み上げたもの）に男衆が登り、炎や煙に耐えながら「ジャッソー、ジョヤサ」と声を掛け合います。歳戸木は高さ3㍍を超え、県内の蘇民祭では最大級といわれています。

火の祭りを象徴する火たき登り

えさし

まえさわ

先輩が築いた伝統受け継ぐ

前沢42歳厄年連が事務所開き

新旧の実行委員長が看板引き継ぐ

平成20年前沢42歳厄年連桜木申友会（おうみしんゆうかい）（鈴木雅彦会長）の事務所開きは1月13日、旧絹川書店で行われました。会場には前年や次年度以降の厄年連、水沢・江刺区の42歳連会員など約80人が駆け付け、神事や伝統の看板引き継ぎを見守りました。

同会は、昭和57年度の前沢中学校卒業生を中心に組織され、4月20日に行われる奥州前沢春まつりの準備に取り掛かっています。当日は「ありがとう～愛するまち、愛する仲間、愛する人よ」をテーマに、ロック調の軽快な曲が特徴の創作演舞「桜花爛漫～keep the faith！」を披露します。

好記録を目指し果敢に挑戦

衣川区民スキー大会

第28回衣川区民スキー大会は1月27日、国見平スキー場で開かれました。小学校低学年から74歳までの34人が参加し、年代・性別ごとに17部門に分かれ、大回転種目でタイムを競いました。

時折強い風が吹き付ける中、参加者は果敢に旗門を攻めるなど、好記録を目指して緊張感ある競技が展開されました。総合優勝に当たるラップ賞は、53秒29を記録した千葉浩史（ひろし）さん（衣川スキー協会）が2大会連続の獲得。総合2位には中学生ながら53秒83を記録し、最優秀選手賞にも輝いた佐々木郁弥（ふみや）君（衣川中1年）が続きました。

力強い滑走を見せる参加者

ころもがわ

おわびと訂正　1月号17ページの胆沢区の話題中「舘野英司先生（医師？）」とあるのは誤りで、正しくは「舘野英司さん」です。おわびして訂正します。